



東京オリンピックが始まります！

“待ちに待ったオリンピック”と言えないところが残念ではありますが、コロナ禍のなか開催に向かっています。選手たちは懸命に頑張っています。日本選手の活躍に期待が集まります。

時節柄応援しにくいのが少し残念ですが、それでも、爆発的に感染者が増えない日本は恵まれています。元々免疫があったのか、インバウンドで免疫を獲得できたのか、詳しいことは専門家に任せますが、早く、マスク生活が終わらないかな～。

荒木 勇

現場見学会を3軒実施しました

コロナ禍ですが、皆さんステイホームということで、『ひょっとして改修需要が高まっているのではないか！』と、勝手に想像し、施主さんのご厚意により、現場見学会を実施することができました。

中京・上京・左京区で、総二階、厨子二階、厨子二階と色々な町家がみられるとあり、ご近所を中心に延べ120名を超える大勢の方にお越しいただきました。ありがたい話です。

マスク、検温、健康状態の申告、消毒、ビニール手袋と、仰々しい受付でしたが、どの見学者の方も協力的で助かりました。今後も施主様にご協力いただいて是非続けていきたいです。



受付風景

地域未来牽引企業に選定されました

経済産業省が選定します。地域経済の中心となる担い手となりうる企業という事でお墨付きを頂きました。(^^)/ 色々な特典があるようで、ちょっと期待しています！



地域未来牽引企業

竣工前現場確認を始めました！

今年から、『大きな工事の場合、お引き渡しの前に不具合がないかどうか確認したほうがいいのか？』と、いう事で、監督みんなで集まって現場確認会をすることになりました。

自分一人では気が付きにくい所も、たくさんの目でチェックすることにより、いろんな気づきが生まれます。いろんなアイデアも得ることができます。中には、『え！そんなところまで気になる？？』といった指摘もありますが、それもまた楽し。できるだけ今後も続けていきたいなと思っています。



みんなでチェック！

塀補強工事

今回ご紹介する工事は、大正4年に創業され、絞り呉服の製作やスカーフ、洋服、インテリア等にも絞りを応用した商品を販売されている「片山文三郎商店」さんの塀補強工事です。



写真①



写真②



写真③

【写真①】 写真右側が既存の板塀で、高さ3mの長さ17mもあり、補強が必要とされる状態でした。

こちらの塀が地盤沈下の影響か、建物側の土間レベルからかなり下がっていて、目視でもはっきり分かる程です。しかし、塀をジャッキアップする訳にはいきませんので、現在のレベルより下がらないよう何か補強ができないか、というご依頼を頂きました。

【写真②】 早速土間を割って掘削の準備です。割るときにも沈下で地盤に空洞が無いかに注意しながらの研りです。土間から50cm程の高さにある木製の横棧は、塀の倒れ止めです。ちょうど横棧の高さまでがコンクリート基礎となっているのですが、基礎が内側へ傾いて上部の板塀とくの字に折れて危険な状態でしたので、解体時の振動で倒れないよう突っ張り補強を施しました。

【写真③】 せっかく土間を研りますので、合わせて地中の給排水、ガス配管も一緒にやり替えることにしました。町家の通り庭にミニコンボを入れての作業です。そしてガス屋さんと水道屋さんが相番での作業で、効率をアップさせます。

【写真④】 配管工事が終わり、基礎補強工事に掛かります。一度に塀の足元を掘削すると転倒する危険がありますので、延べ 17 mを3分割して行うことで進めました。鉄筋は既存基礎にアンカー止めして一体化させることで、より強度を高めることを考えました(写真は2工程目のベースコンクリート打設が完了したところです)。



写真④



写真⑤

【写真⑤】 補強コンクリートベ

ースの上に土間コンクリートを被せて補強工事の完成です。仕上がってみると、既存の通路に 10 cm程の補強コンクリート基礎ができただけの工事ではありますが、以前の不安が解消されたということで考えると、対費用効果が大きい工事であったのではないかと思います。普段の木造工事とは一味違う貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

文三郎商店さんは、絞り染めの凹凸を活かしたユニークで大胆なデザインが特徴です。素敵な商品でいっぱいですので、皆さん是非一度ご覧になってください！ WEB : <https://www.bunzaburo.com/>

米沢 和也

外と内の間

外と内の間の場所、が好きです。

『中間領域』と呼ばれたりするようです。正確な定義はわかりませんが、内にいながら外を感じる空間、または、外にいながら内を感じる空間のことで、住宅の場合ですと、土間、縁側、サンルーム、ピロティ、中庭などが該当するでしょうか。

最近では、土間リビングやウッドデッキなど、中間領域を取り入れた住宅も増えていますが、実は、昔の日本家屋には当たり前にあった空間で、京町家も中間領域の宝庫だったりします。

ミセニワやハシリニワ、坪庭やゲンカンニワ、広縁や濡れ縁は言うまでもなく、ミセノマやザシキさえ、開け放せば境界なくセンザイまで一続きの空間となり、建物全体が大きな中間領域になります。

これらの空間は「家に上がるまでもないけどちょっと座って話ができる場所」や、「外に出るのは面倒だけど夜風にあたってビールを飲む場所」として機能したり、「趣味の道具などの手入れをする場所」や「安全に子供を遊ばせる場所」を提供したり、日々の暮らしをちょっとだけ豊かにする装置になりますので積極的に計画に取り入れるようにしています。



before & after



中村家住宅

写真は、現在改修中の町家の Before & After です。織屋建の土間だったと思われる空間ですが、以前に座敷と広縁に改修されており、小さなセンザイからはほとんど空が臨めない状態でした。今回の改修では、波板の庇を撤去し、広縁部分を壁と軒に囲われたウッドデッキとすることで、内も外も広く感じられるよう工夫してみました。

最後の写真は、昨年の社員旅行で訪れた沖縄の中村家住宅です。大好きな中間領域の一つです。雨端(アマハジ)と呼ばれる軒先空間は、風雨や日差しを防ぐと同時に、玄関がわりの接客の場としても機能したそうです。

長崎 道

洗面室の新設

1年ほど前に、もえぎ設計さんから古い民家の改修のお仕事をいただきました。通り庭に風呂洗面トイレをつくり、階段を台所に改装する工事です。つい最近エアコンの相談に伺う機会があり、以前作った手洗い場が、とても美しいと感じたので、紹介いたします。

左の建具は、この家に使用されていたもので、ガラス押の角が、Rになっていておしゃれです。右の扉は、弊社古材倉庫の建具で中古品です。細い煤竹が使用されていておしゃれです。右奥の小窓は、1930年代に製作されたイギリス製ステンドグラスでお客様の支給品でやっぱりおしゃれでした。

壁は、塗装で、施主施工です。色合いがとてもよかったです。正面の水栓は、香港製。これも支給品でやっぱりおしゃれです。洗面ボウルは、TOTO製でシンプルですが、カウンターは、桧のはぎあわせで、弊社作成品です。天井は、構造用合板で、節だらけです。扉枠は杉です。床板は、ナラ無垢の床板です。

残念ながら、まだ あまりまだ使用されていないとのことでしたが、『桧などの杉だと思っのですが、木の香りがいまだに 気持ちいい、、、です ^^ 』とおっしゃっておられました。とても嬉しく感じました。

荒木 智



住まいについていろいろな話 第28回 「建築工事の今と昔」

建築工事には日々の連絡が欠かせません。またいろいろな資材を運び込みます。

大きな物、重い物、またこまごまとした毎日使う物、そして職人さんが使う道具や現地に来る方法などなど。今と昔は大きく違います。

昔と言っても私の話で、小さいころ近所の精米店が配達用にダイハツのミゼットを買われて町内中で見ていたことが有ります。あまりに珍しいので「乗せて、乗せて」と頼んだら助手席に乗せてもらい、ぐるっと一周走ってもらった記憶が有ります。下を見たら地面が見えているような造りでした。あれから考えると車の進歩は恐ろしいまでの速さで進化しています。もうじきガソリンエンジンからEVに代わるなど想像もつきませんでした。



さて、それでは私の覚えている以前はどうだったかは昔の人の話でしか知りませんが、聞いていたことで「へ〜」と驚くことをいくつか。

▶ **電話** 電話がそれほど各家に普及していないとき、明日の工事などの連絡は丁稚さん(今では見習い)が近所の業者さんの家まで走って行って口伝えで伝える。そのために専門業者さんは工務店の周り3キロ以内ぐらいの所を使っていたという話。全てそうではないにしても多かったでしょう。アラキ工務店も元々は御所の南側でしたので、今でもそのご近所に何軒かの業者さんがおられます。

▶ **荷運び** 古くは大八車と言われるもので人力や馬で運んだのでしょうか。もっと新しくなると自転車横につける側車(サイドカーのようなものですが、あくまでも自転車です)、そしてリヤカーですね。これは私もよく見ました。こんな危ないもので4mもの材料を運んでいたのですね〜。



▶ **通勤** 昔の大工道具は箱ひとつに納まるぐらいの手で使う道具が主で、自転車に乗り行ける範囲での仕事だったのでしょうか。必然的に現場は工務店から半径10キロ程度の中での工事になり、遠くても市内に限ることになります。特に遠方に行く場合は泊まり込みの工事として対応していたのでしょうか。これは今でもアラキ工務店の工事ができるエリアとして京都市内とその周辺とさせていただいています。勿論遠方の方の工事もさせていただいていますが、事前に十分な打ち合わせが必要になります。

▶ **道具** 今は職人さんの使う道具類が機械に代わり大きくまた重くなって、種類も作業に特化した機械が増えていきます。現在職人さんが現場に行くのはいろいろ考えて軽トラックにしていますが、道具類を荷台に積むのですが荷台の7〜8割を占めることも有り、また会社の道具置き場にもこれに倍する広さが有りいろんな道具や機械が有ります。変わりましたね。

そうそうある時から駐車違反が厳しくなり、今までは現地の家の前に停めておけたのが、違反切符を貼られるようになり駐車場に預けるようになりました。これがひと仕事で、積んでいる道具や機械を全て降ろし屋内に運び込み、工事が終わればまた積み込んで帰るなど工事以外に時間を取られ大変です。

今は車があるので大阪の業者が京都へ行き、京都の業者が滋賀県に行きなんて当たり前ですね。以前水道屋さんでずっと前に定年で引退された方が「昔、車が無い時に水道のパッキンを変えに太秦から大津まで自転車で行った」と言われていたのを思い出します。イヤこれはつらいな〜

村上 幸男

鉄骨階段の新設

とある京町家の改修現場で、今までにない階段を掛けました！

その階段とは、鉄骨階段です。この鉄骨階段はお施主様の希望の元、「直3段+回り2段+直6段+回り2段」の複雑な階段です。長屋の京町家という事もあり、建ち直しやレベル直しが完璧に出来ないため、少し歪んだ所に階段を設置します。そんなこともあり大工さん、鉄骨屋さ



写真 ①

んと共に打ち合わせを重ねました。

組立前の手摺と側板がこちらです(写真①)。手摺はフラットバーを使い、意匠兼落下防止の為ステンレスワイヤーを二本入れています。このワイヤーがまたカッコイイ♪回りの黒とステン色が良い雰囲気になっています。



各鉄骨階段の部材は工場加工し、現場ではボルトでの組み立てのみという一発勝負。木材のように削り合わせ等は出来ません！数ミリの誤算も許されません。漆喰壁や化粧柱等も仕上がった状態ですので、当日の緊張感はものすごいものでした(写真②)。



完成したのがこちら！(写真③)。真壁の白漆喰塗りの吹き抜けに、艶消しの黒いスチール製の側板と、タモ集成材の明るい木部が完璧にマッチしています(^)/。

今回の工事で今までにない程、大工さんや各協力業者さんと打ち合わせが出来ました。その分全体の納まりも素晴らしいものになったと思います。

お施主様が喜んで頂くのはもちろんのこと、私たち自身のやりがいも特に感じられる工事でした。ありがとうございました。

大久保 朋彦

祇園町の町家

昨年からの今年の2月頃まで、祇園甲部に佇む町家の全面改修に携わる機会を頂いた。祇園甲部といえば京都五花街(宮川町・先斗町・上七軒・祇園東・祇園甲部)の中でも最も大きな花街として、その大部分が祇園町南歴史的景観保全修景地区にも指定されている。季節を問わず、国内外の観光客が常に行き交い、観光都市京都の中でも屈指の観光名所へと発展を遂げている。

しかし、その歴史は意外に浅く、明治新政府による「社地領上知令」により、広大な建仁寺境内北側を京都府に上知(注:知行地を取り上げる意)した事から始まる(明治5年)。上知された土地の規模は「14,175坪」に及び、建仁寺は境内の約半分を失った事になる。その他の上知された土地を含めた18,500余坪は下京区第十五学区女紅場へと払い下げられ、現在の祇園甲部の礎が築かれた。

下京区第十五学区女紅場は、獲得した土地の不動産運営を花街構成員の合議制によって担われた。京都屈指の観光名所である祇園甲部の街並みは、女紅場を中心とした町衆独自の土地経営により形成され、また維持されてきた。この伝統が続く限りにおいて、祇園甲部の街並みが大きく変貌する事はないと信じている。

花街に建つ伝統建築といえば、花見小路通に面する町家に代表される「お茶屋建築」がある。特徴としては玄関に面して階段が設置され、客が幅の広い「踊り場」を介し2階の座敷へと通じる動線を確保、全体的に数寄屋基調であるなどの特徴がある。また、地区内に8種類存在するとされる外観は、もっとも標準的な「本二階塀造茶屋様式」とよばれるものが多く存在し、「通り庇の先端に塀を設けて、庇の下部を屋内に取り込んだ様式」であり、2階に



「ハリダシエン(玄関側に半間程度張り出した2階縁側)」が付くのも特徴のひとつ。

今回、改修の機会を得た町家は、花見小路通に面した町家とは違い、路地奥の3軒長屋のうち2軒の全面改修であった。3軒ともに花街町家の特徴のひとつである「ハリダシエン」が備わっており、2軒のうち一軒は飲食店に用途変更されていたとはいえ、本来の構造体もよく残っていた。改修にあたっては、前述した祇園町南側(祇園甲部)の歴史を鑑みて街並みを損なう事のないよう心掛けた。

工事期間中は、現在も続くコロナ過の只中であった。そのため、観光客の往来はインバウンド最盛期に比べて皆無に等しく、施工は速やかに行う事ができた。しかし、京都の花街文化を継承、維持するためにも一刻も早い人々の往来が再開される事を祈念いたします。

小野 敏明

新入社員二人から皆さんにメッセージ♪

幼い頃から、建築という一つのものづくりに対して、とても興味を持っていました。

自分は京都出身ということもあり、京都の風情ある街並みを守っていききたいという思いからアラキ工務店に入社しました。

知らない事もたくさんありますが、先輩の監督さんや大工さんに、建築に対する知識、又色々な事を教えてもらい、成長していきたいと思っております。

島田 将也



物心着く前から大工に惹かれ、夢変わらず高校卒業後大阪の専門学校に二年通い、担任の先生の紹介でアラキ工務店に入社しました。

3月から一人暮らしも始め、新しい環境にまだ慣れませんが、最近はノミ研ぎにハマりだし、少しずつ楽しいことも増えてきました。仕事ではまだ怒られることも色々ありますが、立派な町家大工になれるよう日々精進します。

斉藤 康一



補助金の嵐

頂けるものはもらっておこう!という事で、一通り申請しています。これまでで、11種類。換気扇や衝立の購入や販売支援に役立ちました。簡単ですぐに入金されるものから、これでもか



というくらいに書類が必要なもので様々です。頂いておいてなんですが、なんかもうちょっとシンプルな制度にできないものかと、つくづく感じました。

ウッドショック!

おおまかにいうと、杉や桧など国産建設用材の価格がここ1ヵ月の間およそ2~3割も高騰しています。輸入材はさらに高く、倍以上の価格になったり、材料が入荷しなかったりといった状態が続いています。

当社の仕入先も「今まで見かけなかった人たちが市場にやってくる」とか。

これと呼応するように住宅設備も値上がっています。早く落ち着いてほしいなと願っています。



編集後記

お昼、現場にいるときは、持ち帰り弁当を食べたり定食屋に行ったりしているのですが、事務所にいるときは、家で食事をします。自宅にいと、TVをつけるのですが、お昼のワイドショーがだいぶ様変わりしました。

去年は読売「ヒルナンデス」だけが、お気楽にグルメやファッションを流していて、他は全てコロナ一色だったのですが、最近は、「ひるおび」も定番の天気予報が復活。「ワイドスクランブル」も得意な韓国情勢。「バイキング」も芸能人の浮気を扱ったりと、バラエティに富みだしました。日によっては、どのチャンネルもコロナニュースをやっていないこともあります。

いやあ。これで、食事もおいしいいただけますね。

荒木 勇